

No. 10  
31 Jan. 2006

日本・パプアニューギニア協会会報

# ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

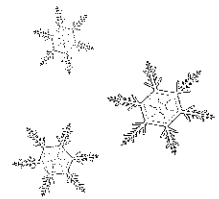
発行日 平成18年1月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

## 新年のご挨拶



NPO法人 日本・パプアニューギニア協会  
会長 谷口 誠



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、お元気で希望に満ちた明るい年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

さて、当協会も発足以来、今年で3年目を迎えることとなりました。そして、皆様の温かいご支援、ご協力のもとに様々な行事を行うことができました。ここにあらためて御礼申し上げます。

昨年は2月15日にマイケル・ソマレ首相が来日され、パレスホテルにて、総勢200名以上のお客様にご参加いただき、盛大な歓迎レセプションを行うことができました。

また、9月には「第三回笹川平和財団パプアニューギニア観光研修生受け入れに関する招聘事業」を無事終了いたしました。

そして、PNGの独立記念日9月16日には、愛・地球博にて、愛知県豊田市(元藤岡町)のご協力のもと、式典及び文化交流プログラムを催すことができました。そこでは、同市の小学生1000人が人文字を作って歓迎して下さったのをはじめ、PNGのシンシンが披露されるなど、満員の会場一杯に感動的な式典が繰り広げられました。

さらに、9月20日には、パレスホテルにて総勢250名のお客様にご出席いただき、「独立

30周年記念レセプション」が行われました。

11月21日には、当協会の有志で構成された実行委員会により、ラバウルにて「南太平洋盆踊り/大花火大会2005」を無事行うことができました。

紙面の都合上、すべての行事をご報告することはできませんが、ここに挙げた他にもいろいろなことが、会員の皆様のお力添えを得て実現しました。たとえ小さなことであっても、日本とPNGのことを大切に思う個人会員の方々からいただく種々のご提案は、とても大切なことだと考えております。

本年は、5月にソマレ首相が来日され、小泉首相と共同議長として沖縄での島サミットに出席される予定です。

その他の行事につきましては、皆様のユニークなアイデアをお寄せいただきますよう期待しております。そして、当協会も気持ちを新たに、パプアニューギニアとの友好関係をさらに促進したいと考えております。皆様の温かいご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、皆様にとって2006年が素晴らしい年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

2006年元旦

# 「南太平洋盆踊り/大花火大会 2005」を終えて

川口 築 (日・パ協会個人会員/フレンズ・オブ・PNG会員/日本旅行作家協会会員)

「うえをむういて あーるこううおう  
おうー」

いきなり「上を向いて歩こう」の合唱  
が始まった。

担当の先生に引率された小学生  
10人程の団体が、二階建ての櫓  
の前に出て唄い始めたのである。  
「なみだがあ こぼれないようおう  
おうー」

心配そうに見守る先生、歌詞を手  
に高らかに唄う生徒。

なんせ外国語の歌である。かなり  
練習をしてきたことが窺える。

「なきながらー あるうく ひとりば  
おっちのよるうー」

唄い終えた子供たちから笑顔が  
ほとぼしる。広場を埋め尽くした

600人ほどの観客から喝采がおこる。11月21日午後  
2時すぎ。ラバウル、ハママスホテル。「南太平洋盆踊り  
大会・花火大会2005」が、いきなり始まった。

さながら「学習発表会」の体となった盆踊り大会は、生  
徒たちの歌と踊り(シンシン)と激しい「儀式(?)」、  
我々に対するプレゼントの贈呈式、地元の有力者の  
挨拶、金子さん達による和太鼓と笛の演奏、そして  
メインイベントの盆踊りへと盛り上がっていく。

浴衣姿になった地元の人たちやシンシン姿の子供たち  
が、日本から参加の人たちの動作を真似て踊る。  
おかめの面や般若の面まで現れ、会場が盛り上がる。  
午後6時頃には日も暮れ、盆踊りは終わり、花火大会  
となる。場所をホテルの玄関口に変え、約300発の花  
火を見上げると、最後にピアニスト西田純子さんによる  
ミニコンサート。日本の曲、PNGの曲をしっかりと聴  
き、お開き。長時間に亘るイベントが終了した。

「南太平洋盆踊り/大花火大会 2005」は、戦後60周年  
とPNG独立30周年の節目に当たる年に何か日本人  
としてやれることはないかという、日本・パプアニュー  
ギニア協会会員有志の発案で始まりました。  
太平洋戦争時、ニューギニアの地で亡くなった多くの  
日本人にとって、またPNGの人達にとって何が良  
いだろう…。盆踊りをすれば喜んでもらえるのでは



ないか。更に花火も打ち上げられ  
れば…。2004年からこの構想  
が動き出しました。特別顧問に谷  
口会長、実行委員長に山田氏、庶  
務担当に佐藤氏に就任いただき、  
実行委員は賀部祥史氏、石神氏、  
丸谷氏、賀集氏、賀部祥平氏、大  
久保氏、角田氏、そして私というメ  
ンバーになりました。

資金の問題、安全面の問題、花火  
の問題等々、計画が進むにつれ難  
問が湧き出てきました。しかし特に  
発起人の方々の精力的な活動に  
より何とか解消でき、日本からご  
参加の38名の方々と共に成田を  
出発したのです。ラバウル市内

観光、盆踊り大会、バイニン族のファイヤーダンス見  
学、3つのコース(マダン、ゴロカ、ポポンデッタ)+α  
に分かれての観光、ポートモレスビーでのフェアウェ  
ルパーティ等、無事イベントを終えることが出来ました。

このイベントが成功裡に終わりましたのは、日本・パ  
プアニューギニア協会を始めとする多くの方々より絶大  
なるご支援いただいたこと、ならびに成田さん他在  
PNGの方々や日本からのツアーの皆さんがイベント  
のお手伝いを快く請け負っていただいたことのおか  
げです。

配布物の開梱、浴衣の仕分け・着付け、万国旗・提  
灯の取り付け、おにぎり・水ヨーヨー作り、受付係り等  
々…皆さんのご協力なくしては出来ないものでした。  
感謝いたします。本当に有難うございました。



全員で記念撮影



「東京音頭」や「炭坑節」に合わせて先ずお手本を…

鳥に教えてもらったことば



(うすい ひろゆき)  
当協会会員、社会言語学の研究からトクピシンに興味を持ち、ラジオ・オーストラリアのトクピシン放送を聞いて独習。ボランティアでトクピシンを教えることも。



パプアニューギニアでは、トクピシンは鳥が教えてくれたことばだと言う人がいる。Tok PisinのPisinが鳥を意味するところに由来する(英語の鳩、つまりpigeonが語源)。だがPisinには鳥だけでなく、ピジンの意味もある。ピジンとは共通語がない人々が接触したときに立ち現れてくる言語の総称だ(この単語自体英語のbusinessから来ているという説がある)。Pisinに2つの意味があるために「トクピシン鳥起源説」が出てきたわけだ。

しかしわたしはこの「鳥起源説」が大好きである。この説には、トクピシンが生まれてきた経緯を思わせるところがあるからだ。「トクピシン祖語」は18世紀から19世紀に南太平洋にやってきたヨーロッパ人が、現地の人たちと接触する中で形成された。特に重要だったのがオーストラリア・クィーンズランド州のプランテーションらしい。南太平洋各地からここに集められた若者たちがこの共通語を習い覚え、年季奉公が終わると出身地の村に戻っていった。この人たちがトクピシンのご先祖様を広げていったのである。

実際、今でもトクピシンの兄弟分の言語が、ソロモン諸島(ソロモンピジン)やヴァヌアツ(ビスラマ)、オーストラリア北東部のアボリジニ(クリオル)やトレス海峡民(プロケン)の間でも話されている。鳥が教えてくれたという言い伝えもむべなるかなである。わたし自身、ことばが鳥のように、大海原や国境を越えて飛んでいくというイメージに大いに心ひかれた。

4回にわたってうんちくをかたむけてきた。昨年、新しい入門書も出版された(岡村徹『はじめてのピジン語ーパプアニューギニアのことばー』三修社)。日本にいながら短波ラジオやインターネット(<http://www.abc.net.au/ra/tokpisin/default.htm>)でトクピシン放送を聴くこともできる。この機会に一人でもトクピシンを始める方が出てきたとしたら、これほど嬉しいことはない。

この連載に当たっては、わたしのトクピシンの師匠である千田俊太郎さん(東京大学・日本学術振興会)にいろいろご教示いただいた。深謝。

Toktok wantaim Usui Hiroyuki, em i raitim ol stori na liklik kos bilong Tok Pisin

「トクピシンうんちく講座」の著者、臼井裕之さんへのインタビュー

これまで4回にわたり、「トクピシンうんちく講座」を連載していただいた臼井さんは、エスペラントの詩を日本語訳し、詩の雑誌(『Midnight Press』2005年秋号)に掲載されるなど、エスペラントの大家という意外な素顔もお持ちです。連載の終了にあわせてお話を伺いました。

(臼：臼井裕之さん、佐：当協会事務局佐藤直子)

佐：臼井さんとPNGとの出会いは、どのようなものだったのですか？

臼：PNGに行ったのは2003年9月です。あまり大きい声では言いたくないのですが、1週間滞在しただけです。

佐：そうですか。それでその後は？

臼：え？ いや、その…(小さい声で) その1回だけなのです、今のところ。

佐：そうですか、1週間いただけでトクピシンをマスターされたのですか？

臼：いや、トクピシンはその前から勉強していました。

佐：へえー、そうですか。なぜトクピシンを勉強しようと思われたのですか。

臼：わたしはもともと、中学生のころからエスペラントをやっているのです。120年前くらいにザメンホフという目医者が、ことばの壁をこえるために発案したというあれです。7年くらい前からエスペラントを学問的に研究しようと思って、夜間の大学院に通って勉強するようになりました。

佐：人工の国際語といわれるエスペラントですよ。

臼：そうです。でも本当は言語というものは自然物、つまりそのへんにころがっている鉱物とか生えている植物じゃないですから、英語だって日本語だって、人工的なものなのです。ただしそうはいつても、英語や日本語とエスペラントが違うのは、エスペラントが、いつ始まったかはっきりしているとい

う点です(1887年に発表)。でもトクピシンも、だいたいいつ頃からPNGで使われるようになったかが分かっています。これは偶然ですけど、エスペラントが発表されたのと同じ19世紀の後半です。それにどちらも、母語が違う人たちが橋渡しする機能を持っているところも共通しています。そこで、トクピシンとエスペラントを比較してみようと思って、2002年くらいからトクピシンの勉強を始めました。

佐：日本でトクピシンを勉強するのは大変ではなかったですか。

臼：最初は、英語で書いてある小冊子しかなくてね。でも調べてみると、日本語で書いてある文法書も見つかったし、オーストラリアから立派な英語書きの教科書(CD付き)を取り寄せることもできました。

佐：トクピシンとエスペラントの比較研究の成果はどうですか。

臼：まだちゃんとした研究にはまとめてないのですが、いろいろ類似点が見えてきました。どちらも言語として欠陥があるように言われてきた過去がありますが、これは見当違いですね。それから、現在のPNGではトクピシンを生まれたときから話す人たちがいますが、エスペラントでもそういう母語話者が出現しているところも似ています。

佐：何か「ごらくちょう」の読者に伝えたいことがありますか？

臼：そうですね、せっかくPNGに行くのならトクピシンを少しでも勉強して行くと、旅がもっと楽しくなりますよ。外国人がトクピシンを口にすると、みんな喜んでくれるし、英語よりずっと易しい言語ですから。ご要望があれば、数回くらいなら喜んでトクピシン講座を「実演」しにうかがいます。

佐：そうですか。それでは最後になりましたが、一年間「トクピシンうんちく講座」を連載して下さり、本当にありがとうございました。臼井さんのこれからの益々のご活躍を心より期待しております。

## 日本・パプアニューギニア協会 法人会員紹介 第4回

みなさん、こんにちは。

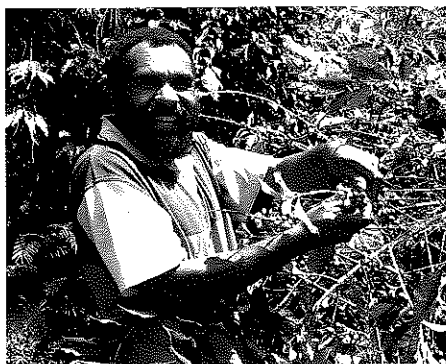
「有限会社ユー・アンド・ユーです。」

〒151-0066  
東京都渋谷区西原3-1-10  
金杉ビル102号  
TEL03-3481-6658  
FAX050-7517-8112

弊社は2005年(平成16年)の設立と新しく、コーヒーに関わる一切の業務御を行っております。特にパプアニューギニアのコーヒーを主力として、近年日本の消費者の意識の中で需要が増大しているスペシャルティ・コーヒー(特に有機栽培)



のみを扱っております。日本は世界第3位のコーヒー輸入国になりましたが、パプアニューギニアコーヒーの輸入量はほんの1%ほどにしか達していません。一昨年、中央高地ゴロカから約90Kmの現地農園を訪ね、農薬や肥料を一切使用せず栽培されている様子を確認してまいりました。(JAS,NASAAオーガニック認



定を受けている)

パプアニューギニアコーヒーとの出会いから20年余りになりますが、残念ながらニューギニアコーヒーの知名度は日本市場ではありません。ヨーロッパ、アメリカにおいてはスペシャルティ・コーヒーはごく日常であります。

弊社は嗜好品としてコーヒーは安全で安心して皆様の好みに答えられる品質の維持を保たなければならないと自負しております。

栽培にたずさわる生産者とその豆を購入される消費者の顔がお互いに見える流通を構築して行けばもっとパプアニューギニアコーヒーの位置づけが高くなって行くと思います。微力ではありますがニューギニアコーヒーの普及につとめてまいりたいと考えております。

## 事務局からのお知らせ

### 訂正とお詫び

前号「ごらくちょう9」の表紙、右側5行目でご紹介しましたマグロのご提供者様は三高物産(株)様に訂正いたします。たいへん申し訳ございませんでした。

### 御礼

前号「ごらくちょう9」にて、愛知博の写真をはじめ、写真数点を協会個人会員の賀集イレーネ様、賀部祥史様よりご提供いただきました。ありがとうございました。

パプアニューギニア帰国隊員有志の会「PNGに青年海外協力隊員として派遣されていた、または関連していたことがあり、

同国を愛しつづけたい」という方のために、「パプアニューギニア帰国隊員有志の会」が設立されました。ご興味のある方は下記までご連絡ください。

〒659-0083  
兵庫県芦屋市西山町12-5  
(担当)原田武彦(9-1ゴロカ)  
TEL:090-1454-3944  
FAX:0797-38-7277  
E-mail:goroka@mac.com

パプアニューギニア・トラベルガイドが出版されました!

今まで、PNGだけを扱っているガイドブックは出版されていませんでした。

昨年11月に、会報誌「ごらくちょう」のデザイン、印刷をお引き受けいただい

る、デザイン事務所 Crest様が「南太平洋盆踊り・大花火大会」に合わせてPNGトラベルガイドを出版してくださいました。

ご興味のある方は、デザイン事務所Crest(TEL03-3957-3444)までご連絡ください。

### 「南の精霊展」と講演会

当協会理事の賀集イレーネさんが、2月12日(日)午後1時より埼玉県鶴ヶ島市にて2ヶ国語講演会を行います。詳細は同封のリーフレットをご覧ください。

## 編集後記

イヌは安産、豊穰、繁栄を表す動物です。今年は会員数を増やし、皆でワンワンと元気に駆け回りましょう。(佐藤直子)

## 日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。  
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 PNG人 1,000円  
会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。  
\*会員数 2005年12月末 法人会員/15 個人会員/112

口座記号 / 番号 00140-2-277582  
加入者名 / 日本・パプアニューギニア協会  
問合せ先 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局  
〒102-0074  
東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階  
(ニューギニア航空 日本支社内)  
電話:03-5216-3555  
E-mail:info@air-niugini.co.jp